

## 平成25年度前期授業公開報告 その2

### ー 児童学科・保育科 児童教育学科 英語コミュニケーション学科ー

#### 児童学科・保育科

##### FD委員 佐藤隆弘(児童学科・保育科)

主要なFD活動の一つに授業公開がある。これは、他教員の授業を参観し、教員自身の授業改善や相互の情報共有に役立てることを目指している。しかし、参観が低調であるなど多くの大学が実施に苦慮しているようである。本学でも授業公開を活発にするべく、これまで実施方法について試行錯誤が重ねられてきた。

本年度は新たな試みとして、各学科で授業公開を企画することになった。学科の特色や実情に合わせることで、教員の参観を促そうということである。児童学科・保育科では、講義と実技の授業をそれぞれ複数公開し、講義を主に担当する教員は実技を、実技を主に担当する教員は講義を見学することにした(講義系教員が講義を、実技系教員が実技を見学することも可とした)。これは、異なる形態の授業を参観することで、自身の授業改善への気づきを得ることを狙ったものである。当然、授業の参考にするなら、自分の授業と領域や形態が同じ授業を見学した方が良いという意見もあるだろう。しかし、あえて違う形態の授業を参観してこそ気づくこともあるのではないかと、というのがこのテーマにした理由である。もう一つの狙いは、形態の違う授業に出ている学生たちの様子を観察して、学生の多面性を知ることであった。学生の多様な側面を知るとは、学生指導にも役立つと思われたからである。

こうして行われた前期の授業公開の結果だが、昨年度よりも参観が活発だったと感じられた。私も実技の授業を参観し、各授業の工夫や学生たちの生き生きとした

面を知ることができ、大いに参考になった。児童学科・保育科以外の複数の学科でも、昨年度よりも参観が活発だったという報告があり、初めての試みとしてはまずまずであったと思う。

今回のやり方で授業公開が充実したものになるかどうかは、もう少し繰り返し実施してみないと分からないが、学科ごとの企画によって教員の連携が活発になり、FD活動がより主体的・組織的になるのではないかと期待できる。

#### 児童教育学科

##### FD委員 宮絢子(児童教育学科)

児童教育学科における今年度前期の授業公開は、FD委員会の提案「テーマの設定と授業公開者の決定は学科・科に任せる」を受け、以下のように行われた。

#### 1. テーマ

授業形態から見る学生の学び

#### 2. 方法

講義系・演習系・実技系の授業を公開し、指導後に参観者による情報交換会を持つ。

#### 3. ねらい

授業形態の違いにより学生の学びにどのような違いがあるのかを観察する。また、日ごろの授業方法の情報交換をする。

#### 4. 授業公開者

講義系 走井先生 4コマ公開

演習系 酒井先生 2コマ公開  
実技系 結城先生 8コマ公開

## 5. 参観後の感想等

学習の目的がはっきりしていること、疑似体験させること、知的好奇心をくすぐることなど、教師の授業の工夫と学生の学びとの関連が見えた。

学科としてのテーマの設定から参観後の情報交換までの一連の流れに、学科の全教員がかかわったのは今回が初めてであった。3系統からの授業も3人の先生方にはその場で引き受けていただいた。授業公開期間後の科内会議では、短期間ではあったが、公開された授業の感想に限らず日頃の自分の授業の工夫点（学生がよりよく理解するための工夫点、学生がより主体的に参加するための工夫点、はたまた学生が居眠りをしないための工夫点）についての話題が出て、学生に対する現状認識や種々の情報交換ができたことは有意義であった。今後は、授業公開の持つ意義等、原点の話合いが持てればよいであろう。

## 英語コミュニケーション学科

FD委員 石塚倫子(英語コミュニケーション学科)

今年度前期の授業公開の企画は、外国人契約講師の授業——特に、マニトバ大学の講師陣によるIntensive Englishの授業、及び新任のトム・エドワーズ先生の授業——を、公開していただくことになった。

少人数クラスからなるIntensive Englishは1年生の3クラスをそれぞれ3分割し、さらに週2コマ分を45分ずつに分割し、3人の講師陣で運営する必修科目である。マニトバ大学は、わが校とは20年以上にわたる提携校で、カナダで最も歴史ある国立大学であるが、ここでのIEP(Intensive English Program)方式の授業は現地でも評判がよく、短期、中長期の海外留学

制度で東京家政大の学生たちがお世話になってきた。英語コミュニケーション学科では、さらに「日本に居ながらにして海外留学を」のキャッチフレーズを実現させるべく、1年次でIntensive English、2年次ではイギリスのチチェスター大学の講師陣によるAdvanced Intensive Englishへと繋がるカリキュラムを組んでいる。これらの授業は学生にも評判がよく、成果も現れてきている。今年8月カナダの短期研修に同行した際、学生たちが他大学の日本人学生より英語の理解が正確で、授業も問題なく楽しんでいただいていたことを、筆者自身がこの目で確かめた。

さて、授業公開では、例年、学科の専任教員全員の授業リストを提出していたが、正直なところ、時間的に見学の調整ができない、マンネリ化して新鮮味がない、などの理由で見学者がほとんどなかったのに対し、今回は見学者は11名となり盛況であった。理由は、今まで公開リストに入らなかった目新しい授業だった上、一週間に同じ講師による45分授業が36回(プラスしてエドワーズ先生のAdvanced Oral Communicationのクラス1回)もあり、時間的に訪れやすかったことが挙げられよう。もっとも、学科企画ということでFD委員からの願いが多少、行き過ぎたことが功を奏したのかもしれない。お忙しい中、ご協力いただいたことに深く感謝している。

コメントはほとんどが好評で、「参考になった」、「学生が生き生きして楽しんでいた」、「学生の間を動きながら、個人個人を細かく指導していてよかった」などの感想や、「日本人講師によるBasic Writing Skillsや英文法の授業と、今後どうリンクさせるかが大切である」などの建設的な意見も出ていた。さらに、ネイティブの先生方からは、次回は日本人講師による文法や英作文のクラスを見学したい、とのお申し出があり、科内会議で話し合った結果、後期にその予定を組むことになった。今後、ネイティブの先生方にも結果をフィードバックしつつ、東京家政大独自の魅力ある授業を提供していきたい。

## 編集後記

前号につづき、平成25年度前期授業公開の報告です。今回は、児童学科・保育科、児童教育学科、英語コミュニケーション学科のFD委員の先生に執筆をお願いします。

した。授業を公開し、見学することをきっかけとして、学内で授業を巡る会話が広がってゆくことを期待しています。